令和７年度

文京区議会建設委員会　視察報告書

丸亀市役所併設の市民交流活動センター（マルタス MARUTASU）正面

視察概要

１　視察日程

令和７年１０月２８日（火）～２９日（水）

２　視察先及び目的

⑴　香川県丸亀市

「市街地の再開発・まちづくり」に関する調査・研究

⑵　広島県広島市（広島中央公園エリアマネジメント協議会）

「広島市中央公園の Park-PFI 事業」に関する調査・研究

３　視察参加者

委 員 長	松　平　　雄一郎	
副委員長	品　田　　ひでこ	
委　　員	依　田　　翼	
委　　員	豪　一	
委　　員	宮　本　　伸　一	
委　　員	高　山　　泰　三	
委　　員	板　倉　　美千代	
委　　員	浅　川　　のぼる	
随　　行	杉　山　　大　樹	（区議会事務局議事調査担当主査）
随　　行	小松崎　　哲　生	（区議会事務局議事調査担当主査）

「市街地の再開発・まちづくり」に関する調査・研究

１　視察先名称

香川県丸亀市

２　視察日時

令和７年１０月２８日（火）１４時００分～１５時３０分

３　視察目的

「市街地の再開発・まちづくり」に関する調査・研究

４　視察先対応者

丸亀市都市整備部都市計画課まちなか再生推進室

５　視察先概要

丸亀市の概要　人口 107,482 人（令和７年９月１日現在）

丸亀市は、香川県の中西部に位置し、香川県では高松市に次ぐ第二の都市であり、中・西讃地方の中心都市である。 中心部には丸亀城があり、丸亀市の象徴となっている。また、丸亀うちわの製造が伝統産業で、生産量は全国の９割を占めている。

６　視察内容

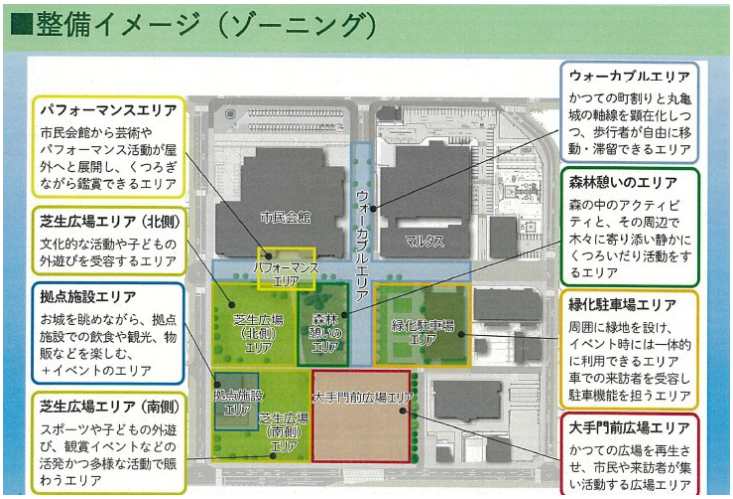
丸亀市のシンボルである丸亀城に隣接する大手町前地区は、市庁舎、市民交流センター、保健福祉センター、市民広場、新市民会館（整備中）等、様々な機能が集約されたまちなかの重要エリアである。近年、大手町地区の４街区を取り巻く状況も変化していることから、様々な市民が集い、市民が躍動する、「市民の舞台」を目指し、再整備計画が策定された。

⑴　事業概要

香川県丸亀市ＪＲ丸亀駅南東約１ｋｍに位置する「大手町地区４街区」の再整備。

４街区を大きく４つにゾーニング、さらに整備イメージを細かくゾーニングして整備する。この４街区の再編整備を契機に丸亀港から４街区にかけての“まちなか”に新たなまちづくりの機運を醸成することで、従来の商業機能中心のまちづくりからの転換を図ろうとしている。これまでの取り組みとしては、官民が共有できる将来ビジョンを確立するために、エリアプラットフォームの構築や「まるがめまちなか未来ビジョン」の策定を行ってきた。

⑵　実施期間



配布資料より

２０１３年から新庁舎整備計画に合わせて４街区の将来ビジョン等についての検討に着手した。大手町地区４街区再整備構想を策定、２０２１年３月には、シビックサービスゾーンの一角に、市民の交流・活動・まちづくりの拠点、新庁舎と市民交流活動センター「マルタス（MARUTASU）※」がオープンした。今後、新市民会館や緑化駐車場、市民ひろばの再整備等も予定している。

まちのシンボル丸亀城のおひざ元に多様な市民が集い、躍動する舞台となるような拠点を目指しているという現在進行形の計画である。

⑶　経費

丸亀市役所とマルタス（MARUTASU）の建築費用で約８０億円を支出した。

⑷　事業の効果

４街区の再編整備もまだ終わっていない。未来ビジョンも策定したばかりの進行形の現状では、最終的な効果は問えないが、現段階でもマルタス（MARUTASU）では、市民の活用が活発に行われていた。こども広場、図書館や貸会議室、コーヒーショップはどれも素晴らしいが、委託運営させることにより大変集客性が良い。事業前には見られなかった受験時期の多くの受験生の図書館利用や子育て世代の利用、若い方の利用が増えている。市民活動団体が参加しやすい環境ができているのでその数も増加しているとのこと。行政をとりまくボランティアやＮＰＯ団体の会合利用やイベント等で賑わっている。

※市民交流活動センター「マルタス（MARUTASU）」

市民の活動を応援する施設で、１階にオープンラウンジ、カフェや閲覧用の図書、２階にはキッズスペース、学習スペース、他にも多目的ホールや会議室などがある。

マルタス（MARUTASU）２階の図書室・学習コーナーとキッズスペース

⑸　今後の課題

ＪＲ丸亀駅に隣接する商業地域（えきまちエリア）と現在進められている４街区再編整備地区（城前エリア）との一体的なまちづくりに向け、来訪者等の回遊性を高める動線整備や商店街における空き店舗の有効活用を通じた、新たな魅力創出と地域資源を活かした対策が求められていると感じた。

丸亀市役所では、全国シェア 90％を誇る伝統的工芸品である団扇（うちわ）が展示されており、その歴史と品質の高さを確認した。しかしながら、ＪＲ丸亀駅構内の土産物店では当該団扇の販売が見当たらず、地域特産品のＰＲ機会が十分に活かされていない現状を確認した。駅周辺の販売拠点や既存の団扇専門店との連携を強化し、土産品としての販売促進を図ることは、地域経済の活性化と観光誘致に資すると考えられる。高品質な丸亀団扇は、2,000 円程度の価格帯で手に入り、土産品として高い付加価値を有すると評価できる。

お城とうちわのまち丸亀

トイレマークも「うちわ」をイメージ

7　質疑応答

Ｑ：　基本構想策定後に、４街区を取り巻く環境が変化し、新たに検討を要する課題が生じたことで、再編整備基本計画に至ったということですが、具体的にどのような環境変化が起こり、それらを解決するために新たに検討した課題とはどのような内容だったのか伺う。

また、特に難しかった課題解決の事例についても伺う。

Ａ：　主に、①市民会館と緑化駐車場の建設場所が、基本構想の計画から入れ替わった点、②丸亀城内にある観光案内所（土産物店）が老朽化しているが、城内での再建築が難しく、城外での整備が必要となった点の２点である。

今後整備を進める大手町地区の南街区について、改めて必要な機能や配置を検討する必要が生じたため、南街区再偏整備基本計画を策定することになった。

苦心した点は、庁舎や市民会館がある北街区の内容が決まっており、そのコンセプト（各施設からの眺望や公園との繋がり等）を踏まえながら、いかに残された土地で必要な機能を配置するかという点であった。

Ｑ：　再編整備基本計画の中で、空間づくりのポイント、舗装のデザインにおける森林憩いエリアと芝生広場エリアに対する考え方や、植栽のデザインにおける既存樹木や新植樹木に対する考え方がとても素晴らしいと感じた。このようになったきっかけは、やはり住民参加の取り組みと大手町地区デザイン会議の実施から出たご意見が、大きな要因だったのか。

Ａ：　ご案内のとおりオープンハウス型説明会やアンケートにおいても、子どもを安心して遊ばせる場所を望む声が多かったことや、デザイン会議における有識者の意見を参考にした。

Ｑ：　市街地の再開発・まちづくりのきっかけとなった大きな要因は、商店街に元気がなくなったことや、まちなかの賑わいを取り戻すためだったのか。

Ａ：　１１０㎢ほどの広さを持つ丸亀市は車社会であり、市の南側に大きなバイパスができたことから、商店街等の賑わいがその道路周辺に移ってしまい、中心市街地がスカスカになってきてしまった。そこで、商店街をはじめ、まちを活性化させて、中心街としての賑わいや魅力をどのように取り戻すかを検討し、大手町地区４街区の整備にあたり、市民会館の来場者にまちなかを回遊してもらえる仕組みを作ることで活性化に繋げたいと考えた。

Ｑ：　整備後の災害における特に風水害への対策と、夏は猛暑等で現状は外に出られる環境ではないが、室内遊び場の設置等も増えてきた。夏の暑さ対策についてお考えを伺う。

Ａ：　水害はほとんど発生しないので、対策は特にない。

しかし、夏は暑すぎて子どもが昼間は外に出ていない。対策としては公園整備において水盤を設け、水面に丸亀城を映し出したり、水遊びができるようにしたりと考えたが、設置やメンテナンスにおける水質確保などにかかるコスト面も考慮して見送った。そこで、森林憩いエリアを活用すると同時に、ミストが出るような施設を設置するなど、公園整備の中で考えていくという結論になった。

Ｑ：　現在進行形のまちづくりということで、官民一体となって４街区を再整備し、おしゃれなお店も入っているが、現在において具体的にどのような効果があったのか。また、スニーカーで気軽に来られるという考え方は、とても分かりやすいが、再整備の課題について伺う。

Ａ：　効果としては、試験前は学生でいっぱいになる。昼前から学生で席がいっぱいになることもある。再開発する前は、学生がそれほど集まらなかったが、現在は並んで待つ状態で､結果として若い世代が集まるきっかけにもなった。また、市民活動団体が取り組みの情報発信をすることで、市民が活動に参加するため集まる機会が増えた。

課題としては、商店街が流動化して、空き店舗は多いが持ち主が住んでいるので貸せないなど、新規にチャレンジしたい人が店舗を確保できないのが現状である。今後は店舗を借りてチャレンジできる機会を増やしていければと考えている。

Ｑ：　チャレンジに対する助成金について伺う。

Ａ：　商店街エリアの空き店舗を改修して出店した場合は助成金が出せるが、そもそも借りる人が少ないので、今後はチャレンジしやすいように、助成金について考えていきたい。

Ｑ：　市民交流活動センター（マルタス）は指定管理者が運営しているが、最初の計画時から入って建物のレイアウトを考えていたのか。

Ａ：　最初は決まっていなかったが、途中で指定管理の業者が決まり、その業者の意向を踏まえて一部内装等の工事内容を変更したことで、子どもから大人まで利用できる使い勝手の良いレイアウトとなった。

Ｑ：　丸亀市の年間予算、事業費、庁舎と市民交流活動センター（マルタス）建設計画時の予算と価格の変更についてわかる範囲で伺う。

Ａ：　年間予算は 771 億円、事業費は 370 億円である。

新庁舎と市民交流活動センター（マルタス）の当初建設予算は約８０億円である。令和２年に建ったので、その後に物価高騰の波がきた。市民会館は、当初８０億程度の予定であったが、建てているうちに物価が上がってきて、最終的には１３０億円かかった。

Ｑ：　丸亀市外から観光に訪れる方の目的地は、丸亀城が圧倒的に多いのか。また、丸亀城以外の観光スポットがあれば教えて欲しい。

Ａ：　丸亀市の南側にレオマワールドと呼ばれる遊園地がある。そこにはホテルもあるので観光客が多く訪れる場所となっている。また、現在は瀬戸芸術祭も開催されているので、そこも人気のスポットとなっている。

Ｑ：　市庁舎が５階建てで免震構造になっているが、高層ビルではないのに免震構造にした理由について伺う。

Ａ：　旧庁舎の耐震診断の結果が良くなかったこともあり、せっかく建て直すなら災害拠点となる災害に強い建物にしようと考えた。なお、庁舎裏側の消防庁舎も６階建てで免震構造となっている。

丸亀市都市計画課でのヒアリング

丸亀市役所の説明

「広島市中央公園のPark-PFI事業」に関する調査・研究

1　視察先名称

広島中央公園エリアマネジメント協議会

2　視察日時

令和７年１０月２９日（水）９時３０分～１１時３０分

3　視察目的

「広島市中央公園のPark-PFI事業」に関する調査・研究

4　視察先対応者

広島中央公園エリアマネジメント協議会

5　視察内容

広島市中央公園は、都心に位置する都市公園であり、中央公園、広島城等、様々な集客施設が集積し、年間470万人の人々が集う交流の場となっている。また、原爆ドームや平和記念公園に隣接し、多くの観光客が集まるエリアに位置している。

その一角に位置する中央公園広場にサッカースタジアムを建設するとともに、旧広島市民球場跡地（広場エリア）及び旧太田川に面した基町環境護岸に、効果的なにぎわい機能などを導入し、中央公園広場全体が一体的に機能するような再整備を行うこととして、Park-PFIを活用した。年間を通じて子供から大人まで幅広い世代の市民、観光客が楽しめ、憩える都会のオアシスとなるようににぎわいを創出することで、広場の拠点性を最大限高めている。

⑴　広島中央公園エリアマネジメント協議会の概要

同協議会は、官民連携により都市公園の価値向上を図る組織であり、現在、一般社団法人として都市再生推進法人の指定取得を目指している。指定を受けることで、都市再生整備計画の申請が可能となり、国の補助金の受け入れも可能になることから、活動基盤のさらなる強化が期待されている。

また広島は、地元愛の強い企業が多い地域性が特徴であり、エディオン、広島電鉄、中国新聞社、ＮＴＴ都市開発などの大企業が、人材と資金を共同で提供しながら協議会運営を支えている点が印象的であった。

事業説明を受け質疑応答

協議会を構成しているのは、４つの運営事業者で、主に共同事業体（ＪＶ）で構成されている。

①旧広島市民球場跡地イベント広場の運営事業者（共同企業体）

②中央公園広場エリアの運営事業者（共同企業体）

③広島サッカースタジアムの運営事業者

④広島城の運営事業者（共同企業体）

■開発コンセプト

“NEW　HIROSHIMA　GATEPARK”
新しいライフスタイルの入口として、中央公園の新たな入口として、
賑わいあふれ、世界に誇れる求心力のある市民公園を作ります。

▼位置図（配布資料より引用）

また、広島中央公園の中には６つの公共施設と１つの民間の美術館があり、これらの施設の運営事業者（指定管理者等）は特別会員として、所管行政組織は行政会員として、協議会の一員として連携している。

さらに、この土地は元々国有地であるため、財務省中国財務局も会員として参加しており、その安定的な基盤提供が協議会運営の支えとなっている。

⑵　主な取り組み内容

①　にぎわい創出・イベント運営

四季を通じたマルシェ、スポーツ、文化イベントを開催し､来訪者の多様化と回遊を誘発している｡特にファミリー層･若年層の増加により、公園が地域コミュニティ形成の中心拠点として機能し始めている。

ひろしまゲートパークエリアでのイベントの全景。
当日は「2025 広島水道展」が開催中。

②　管理運営の工夫

清掃･美化活動への民間ボランティア参画、利用データ分析に基づく照明・植栽・動線改善など、公園運営に民間的な効率性と柔軟性を取り入れている。

③　エリア価値向上への戦略

公園単体ではなく「都心北エリア」全体の価値向上を見据え、周辺地区との回遊性向上を重視した施策を展開している。

こうした取組により、民間投資の誘発や観光動線の強化など、都市の広域的な価値向上につながっている。

パーク内にマルチモビリティステーションを設置し、
回遊性を向上させる実証実験中。

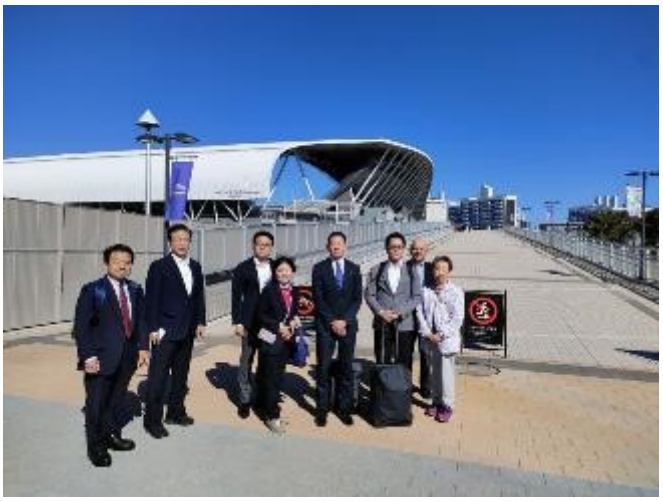
ピースプロムナード

平和記念公園から原爆ドームに至る平和軸線上に、新たに全長約 190ｍの桜並木の散歩道を整備した。また、子どもたちが自由に遊びまわれる公園の地形を生かしたこどもひろばや、中央に水が流れる階段や大クスなどが特徴的な高見ひろばも整備した。

ゲートパーク内にある大屋根広場

柱周りには、環境配慮コンクリートベンチを設置し、工場から排出されるＣＯ２（炭酸ガス）を固定した炭酸カルシウムと、製造時のＣＯ２排出量の多いセメントに代えて製鉄副産物の高炉スラグを使用し、約２トンのＣＯ２排出削減を実現している。

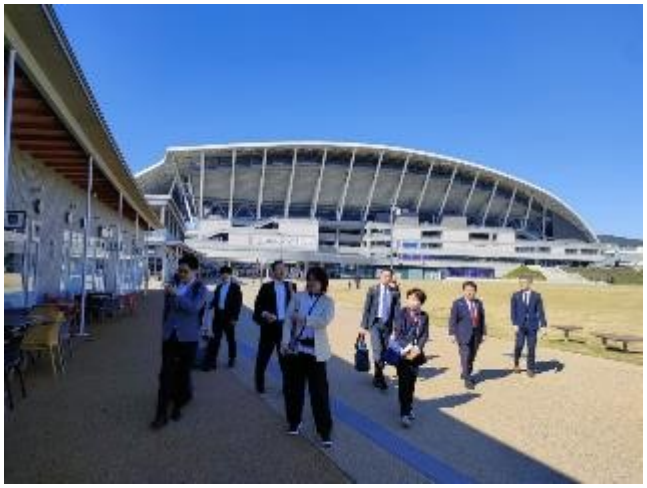
⑶　回遊性を高めるペデストリアンデッキ



　ひろしまゲートパークからサッカースタジアムを結ぶ大規模なペデストリアンデッキ。試合開始時には、多くのサッカー観戦者がここを利用する重要な動線となっている。

　芝生ひろばから広島城へ向かうアプローチには、螺旋型のペデストリアンデッキが設けられている。エレベーターも併設。

⑷　ひろしまスタジアムパークの実施調査



商業施設「ＨｉｒｏＰａ！（ヒロパ）」

▲パーク内に設置してあるマンホールトイレ（20 基）やかまどベンチ（5 基）。
防災公園としての機能もあり、防災備蓄倉庫なども設置してある。

⑸　平和への想い

『Pride of Hiroshima』
ひろしまゲートパーク商業施設内に、Ｇ７サミットの期間展示を常設展として展示。

アニメキャラクターが描かれた平和とサッカーへのメッセージが、スタジアム入口付近の外壁に描かれ、来場者の目に留まるよう工夫されている。

⑹　所見

今回の広島市中央公園の取り組みは、ＰＦＩ（行政・民間・市民が対等に協働）による公共空間を地域価値創出の中核として運営する先進事例である。特に、都市再生推進法人の取得を視野に入れた体制整備、地元企業による強力な支援、民間的発想の導入は、文京区の今後のエリアマネジメント展開において大いに参考となる。本視察は、公共空間を戦略的に活用するための重要な示唆を得る機会となった。

エディオンピースウイング広島（サンフレッチェ広島のホームスタジアム）

６　質疑応答

Ｑ：　どのような経緯で広島中央公園を建設することになったのか。計画の立ち上げから再整備までに費やした期間や、事業計画の進め方はどうであったか。

Ａ：　広島市の制度設計による。元々ここは広島東洋カープの市民球場があったカープの聖地で、平成２０年（２００８年）に最後の試合があったところである。跡地をどうするかという話がある中で、令和元年にサッカースタジアムを今の場所に作ろうということが決定して、そこから動き出した。

令和２年の３月には､広島市が中央公園の今後にかかる基本計画を策定した。それが今の個々の開発の大元になっている。それに基づいて、ひろしまゲートパークとかサッカー場の周辺の Park-PFI　事業が進められた。それぞれの共同企業体（ＪＶ）で会議を進めて、だいたい１年から１年半かけて整備を行ってきた。

Ｑ：　利用者は増加傾向なのか。効果的な賑わいが達成されているか。

Ａ：　賑わいに大きく貢献していると考えている。例えば、ひろしまゲートパークだと、イベント広場は、提案の段階で１０００人以上を集客するイベントを年間９０日以上開催するという提案をした。実際に２０２４年度は、１４４日の実績であった。また、今年度の見通しは１４３日間である。本日も水道展という全国の大見本市が開催されている。

ひろしまスタジアムパークは､開業１年間で３１０万人の集客目標であった。実際は、３０９万人の集客であり、どうにか数字は作れたかなと思う。

元々サッカースタジアムは、広島郊外にあるアジア大会で開発されたエリアにあった。現在は、街中に建設されて、試合前と試合後に広島市中心部の人の流れができてきたことを実感している。郊外だと試合に行って帰るだけだが、今の場所になってから、試合前にランチをしてみたり、試合後に一杯飲んで帰るなど､アンケート等を見ても大幅に効果が表れていると感じており、大いに及第点以上かなと思う。

課題については、Park-PFI は民間が商業施設を建てて、それを公園の整備に生かしてくださいというところだが、効果的な商業施設の集客の取組を継続していけるかどうかである。そこは行政とも連携し、取り組んでいく。

エディオンピースウイング広島

視察を終えての感想

視察を終えて

松平　雄一郎　委員長

市街地の再開発・まちづくりについて学ぶため、香川県丸亀市と広島県広島市を視察させて頂いた。

丸亀市では、丸亀城北側の城前エリアを訪問し、市役所をはじめとする複数の公共施設の再編や連携強化の取り組み、市民が気軽に立ち寄れる場づくりについて学んだ。特に「マルタス」という市民交流活動センターは、子育て家庭・学生・社会人等、様々な世代が、それぞれの時間を快適に過ごす事ができるよう工夫がされ、椅子やテーブル、カフェ、会議室、図書館機能などを兼ねそなえた、非常に充実した魅力ある施設だと感じた。隣接する市役所とは複数個所で連結され、利用者が移動しやすい工夫がなされている点は大変参考になった。今後、新しい市民会館や緑地広場の整備が進み、回遊性がさらに高まり、エリア一体の更なるにぎわいが生まれる事に期待をしたい。

広島市は、旧広島市民球場の跡地を中心とした中央公園を訪問し、広大なエリア一体の、官民が連携した再整備事業について学んだ。新しいものを取り入れるだけではなく、旧広島市民球場の記憶や、原爆ドーム・平和記念公園とのつながりを意識し、歴史の継承を大切にした公園再整備を行っている点に大変感銘を受けた。行政と地元企業が手を携えて、そこに地元住民が一緒になり、魅力あるいい街をつくっていきたい、という想いを感じる事ができ、本区のまちづくりにも活かしていくべき姿勢だと強く感じた。

今回の視察を快く受け入れて頂き、ご対応頂いた丸亀市役所職員の皆様、広島市中央公園エリアマネジメント協議会の皆様に、心から感謝を申し上げたい。有り難う御座いました。

「暮らしの豊かさや満足度」がマストな「まちづくり」

品田　ひでこ　副委員長

丸亀市の市街地再開発（大手町地区４街区）は、市役所を中心にした官庁エリアではありますが、市民の意見や要望を取り入れた街づくりが進められています。庁舎と繋がる市民交流活動センター 「マルタス」は、民間のノウハウを生かした図書や学習スペース、活動室・多目的室にキッズスペースや喫茶店など、明るく開放的な空間で、市民や団体が利用されている様子が見られ素晴らしい居場所になっていました。今後は、屋外のニーズの高い子どもの遊び場、森林憩いの場、駐車場の整備等が計画されていますし、市民会館の改築後には、さらに暮らしやすい市民満足度が高まるエリアになることでしょう。

「広島市中央公園エリアマネジメント」は、「ひろしまゲートパーク」、「ひろしまスタジアム」など主なエリアの建設が３年半の短期間で行われ、順調に運用開始されているそのスピード感に驚きました。子どもの遊び場もインクルーシブ遊具が設置され、環境への配慮も感じられました。また、利用者目線で効果的で効率的な運営がされている点は大変評価できます。決して潤沢な財源や運営費ではない状況ですが、「官・民連携の組織力」と「エリアマネジメントの機動力と実効性」を大いに学ばせていただきました。さらに、ステークホルダーの満足度を上げる工夫が見られ、新時代のまちづくりのお手本と感じました。

今回も実りの多い貴重な学びを得た視察でした。

建設委員会視察感想文

依田　翼

今回の建設委員会の視察は二か所とも街づくり関連だったので、実際に現場を自由に歩き回りながら狙いや効果をみることができたのが大変良かった。

香川県丸亀市は現存十二天守の一つである丸亀城があり、その大手町地区の再開発に関しては市民が憩える場所と観光客が集まる場所の両方を目指していることが感じ取れた。

広島中央公園を核としたPark-PFI事業は、広島市民球場跡地の広大な敷地を取り囲むように店舗を並べているだけでなく、中央で大規模なイベントを実施するなど、これで

もかというほど集客に熱心な姿勢が印象的だった。現状では球場の代わりに隣接地にサンフレッチェ広島が本拠地とするサッカースタジアムがある。数万人単位の集客があるためスムーズに観客が出入りできるため周囲に余裕をもった作りが必要だが、広大な公園の一部を利用することでうまく人の流れをつくれる仕組みになっていると感じた。Park-PFIの運営は企業のコンソーシアムが担っているが、広島市は地元の大企業が多く地元愛を持って政策に協力してくれているのはうらやましい点だった。

建設委員会視察報告

豪一

香川県丸亀市大手町地区４街区再編整備

大手町地区４街区では、公共施設再編を通じて中心市街地の活性化を図る計画が進んでいる。旧市民会館跡地には新庁舎を整備し、学習施設跡地に新しい市民会館を建設。南街区には歩行者空間や市民広場、緑化駐車場を一体化した公園的空間が構想されている。現在再編成の進行中であるが、完成した市役所やマルタスの視察ができた。マルクスは市民に開放された図書館、カフェを蔦屋が委託経営、貸会議室や子ども広場があり、受験シーズンには若者であふれるという、新たな風が吹いている。今後駅方面にかけての再開発による人の流れ、進行に注目したい。

広島県広島市広島中央公園エリアマネジメント

広島市中央公園エリアマネジメント協議会は、2022年７月に設立された組織で、公園内施設の運営者らが連携。共同プロモーションやイベント、回遊性の向上策を企画・実施し、中央公園（約42.8ヘクタール）の魅力を高めることを目的としています。

世界のタンゲといわれた日本を代表する建築家丹下健三の設計は昭和の歴史を心に刻む。原爆ドームにまっすぐつながる公園内の一筋の道、旧広島球場の面影を残す公園。温故知新の公園でした。

視察を終えて

宮本　伸一

香川県丸亀市の「市街地の再開発・まちづくり」について視察。２０１２年に実施した公共施設群の耐震化診断の結果、耐震不足であることが判明し、その後検討を重ね、２０１８年、「大手町地区４街区再編整備構想」を策定。さらに、２０２４年には「大手町地区４街区再編整備基本計画」を策定。同年度には、この再編整備を契機に新たなまちづくりを目指す「未来ビジョン」を策定した。有識者を交えた、地域住民、企業、大学など関係する主体者による協議会を重ねて策定したビジョンには大変な苦労もあったが、実現に向けての機運醸成や、本気になって取り組む思いが強くなったことを学んだ。市の南部にバイパスが整備され、大型観光施設が完成したことから、人の流れが丸亀駅前の商店街など北部地域からなくなってきたが、新たにまちづくりに取り組んできたことで、若い住民の賑わいも確認できた。

こうしたまちづくりへの取組は何より主体者の熱意が重要である。文京区での取り組みに反映したい。

広島県広島市の「広島中央公園」ならびに「広島中央公園エリアマネジメント協議会」を視察。「旧広島市民球場跡地整備等事業」の再開発事業から「HIROSHIMA GATE PARK」の開業に合わせてこの協議会が立ち上げられた。構成員として、４つの正会員と特別会員（公園内の公共施設などの運営事業者）ならびに行政会員からなる。４つの正会員は４つの運営事業にあたる。正会員は共同企業体として構成され、地元の大手企業を中心に運営をしている。旧広島市民球場跡地を有効活用するために、地域全体の魅力とゾーンごとの回遊性を高めるコンセプトを作り、魅力ある再開発事業が出来ている。その運営にあたる協議会の力強いリーダーシップがまち全体の活気を生んでいる。まちづくりにあたりエリアマネジメント協議会の重要性を改めて確認できた。文京区での取り組みに活かしていきたい。

視察を終えて

高山　泰三

今回の建設委員会視察では、丸亀市大手町地区再開発、広島市中央公園の Park-PFI、市営基町高層アパートなどを訪問した。それぞれ異なる都市課題と解決の方向性を実地で感じることができた。

まず丸亀市大手町地区再開発では、公的施設の中にカフェや子育てスペースが自然に組み込まれ、行政施設が単なる「役所」ではなく、市民が日常的に立ち寄る憩いの場として機能していた点が大変印象的であった。公共空間に柔らかさや温度を持たせる工夫は、文京区における施設整備にも大いに参考になる。

続いて広島市中央公園の Park-PFI では、エディオン、マツダ、広島電鉄、NTT といった地元大企業と市役所が一体となって公園運営に取り組んでおり、利害関係者の多い事業にもかかわらず、驚くほどのスピード感でプロジェクトが進んでいた。被爆地広島の強い結束力と、平和記念公園から連続する空間をより良くしようという地域の誇りが、事業推進力の源泉になっていると感じた。

最後に市営基町高層アパートでは、完成から 50 年以上が経過し、老朽化や屋上庭園の安全面など、時間の経過とともに表面化する課題を目の当たりにした。新築時の理想だけでなく、長い年月を経た市街地再開発の「その後」を住民から直接伺えたことは、非常に貴重な経験だった。

今回の視察を通じ、再開発事業は完成して終わりではなく、地域に根づき、使われ続けることで初めて価値が問われるものであることを改めて実感した。文京区のまちづくりにも大いに活かしたい。

丸亀市のまちづくり、広島市の公園整備を視察して

板倉　美千代

丸亀市の大手町地区での整備

丸亀城への軸線中心の空間づくりで、４街区がきっちりとした四角形はかつての町割りや武家屋敷の形状を尊重しているとのことで納得。市民の誇り丸亀城が中心に据えられているまちづくり。まだ整備途上で、今回訪問したのは市庁舎と市民交流活動センター「マルタス」。ラウンジや学習スペース、子どもたちが遊べる空間などゆったりとしたスペースに、思い思いの時間を楽しんでいる光景は、とて

もうらやましい。議場の理事者席、教育長の隣がモーターボート競走事業管理者席。市が施行者で、そこからの収益は市財政への貢献度が高いとの説明に、複雑な思いでした。

広島市の中央公園整備

原爆投下で瞬時に壊滅的被害を受けた広島市は、国等の援助受け、平和記念公園・中央公園を含め一体的に整備され、さらに広島市民球場跡地を含め整備された新たな中央公園は、市民の憩いの場、大規模なイベントも開催できるよう整備されていた。戦後すぐから平和祈念資料館、原爆死没者慰霊碑、原爆ドームへと続く「南北の軸線（平和の軸線）」のもとに建物の配置が計画され、公園や建物は新しくなっても、「７５年間草木も生えない」と言われた町から立ち上がった市民の不屈の思いが込められた公園だと強く感じました。

官民連携によるまちづくり視察報告

浅川　のぼる

１日目は、丸亀市大手町地区４街区再編整備構想に基づく市街地の再開発・まちづくりの再整備の現状を視察した。新しい市庁舎は、市民交流活動センター「マルタス」を併設する免震構造の５階建てで災害時の拠点となる。そこに指定管理業者のアイデアが生かされ、子どもから大人まで使い勝手の良い構造となっている。また、南街区の課題や市民の声も踏まえてデザイン会議で検討し、市民会館の来場者にまちなかの回遊性を持たせることを結論づけ、一体的な連動を図る８つのエリアを設定することにした。再編整備基本計画に至る検討の経緯は、本区においても参考となる工夫が各所に見られた。

２日目は、多くの観光客が集まる都市公園の広島市中央公園を視察した。ここは、旧広島市民球場跡地等の広場エリアやサッカースタジアムの建設等により、効果的な賑わい機能などを導入し、広場全体が一体的に機能するような再整備を行うこととして、Park-PFI を活用している。なお、公園内ではアクティブに楽しむ施設やリラックスできる場所、文化や歴史に触れる施設やこどもも大人も大満足できるひろばなどのエリアにわかれて、幅広い世代の来場者が楽しめるようになっていた。官・民連携組織の各運営事業者のノウハウが、公園の魅力向上につながっていると実感した。